

ZONING

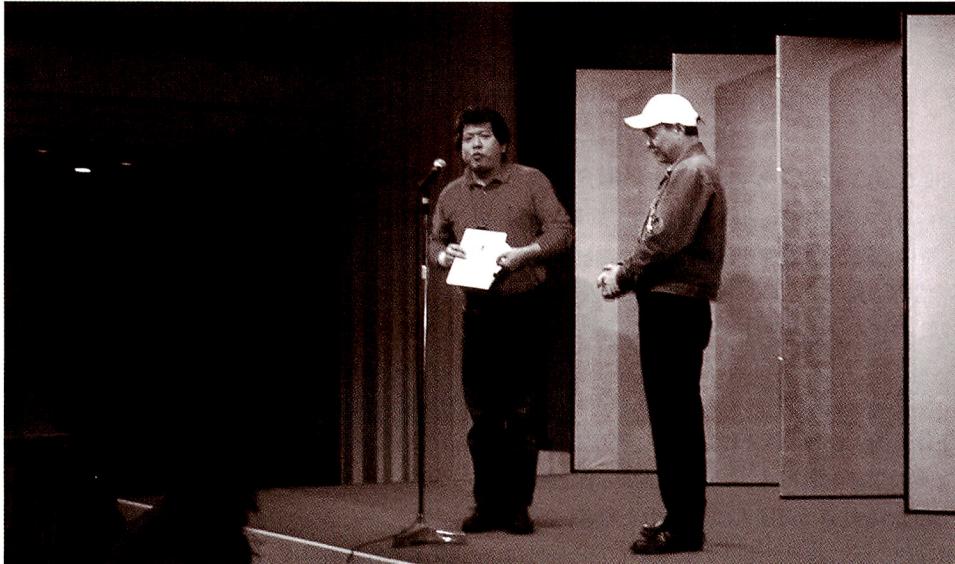
APRIL 2004

VOL.
ZONING
INFORMATION NEWS

29

禁無断複写転載 © 2004. A.C.P.C.

topic 日高正博氏 名誉大英勲章 OBEを受章



受章後の祝賀会にて
右が日高氏

今 や日本国内における夏の野外イベントの華ともいえる「フジロック・フェスティバル」を育て上げた日高正博氏（株式会社スマッシュ代表取締役）が、日英間の芸術文化関係の発展に寄与した功績として名誉大英勲章OBEを英国より贈られました。

日高氏は本会の正会員ではありませんが、わが国のコンサートプロモーターとしての受勲はたいへん名誉な出来事であり、本会としましても、このたびの受章に対し心よりお祝いを申し上げたいと思います。以下、UK NOWホームページ (<http://www.uknow.or.jp/>) 大使館ニュースより引用させていただきました。

日高氏は、長年英国の音楽を熱心に支持し、20年以上にわたり、英国のロックグループを日本公演に招聘してきました。の中には、Oasis、Primal Scream、New Order、the Stone Roses、Wire、Stereolab、Coldcutなど、多数のアーティストが含まれます。

1997年以降は、英国のグラストンベリー・フェスティバルをモデルとしたフジロック・フェスティバルを企画・開催し、日本のみならず、東半球で最大・最

高規模のフェスティバルに発展させました。英国からも毎年、Underworld、Chemical Brothers、Massive Attack、Travis、Blur、Elvis Costelloなど、多くのアーティストを招き、その様子は、英国でも、BBCとチャンネル4により放送されました。

また、グラストンベリー・フェスティバルや、Help A London Childというチャリティーに収益が寄付されたボーイ・ジョージのチャリティー・コンサートなど、英国において、日本市場向けプログラムの制作にも長年携わっています。ondonの事務所では、このフェスティバルに参加する英国人アーティストのコーディネートばかりでなく、英国で活動する日本人アーティストのプロモーションも手がけています。

日高氏は日英間の双方の交流、特に若者同士による日英関係の発展に寄与されました。今回の名誉大英勲章OBEの授与は、日高氏による日英間の芸術文化関係の発展への多大なるご貢献に敬意を表するものです。

勲章伝達式は、3月12日、駐日英國大使館・大使公邸にて、サー・ステイブン・ゴマソール大使により執り行われました。

In honour of Mr Masahiro Hidaka OBE



Her Britannic Majesty's Ambassador
Sir Stephen Gomersall

requests the pleasure of the company of

Mr. Tomozumi Nagata
for an Investiture Ceremony
on Friday 12th March at 14:30 ~

No 1 House
British Embassy
1, Ichiban-cho, Chiyoda-ku
Tokyo 102-8381

PM
R.S.V.P.
Tel. 5211 1112



英國の名誉勲章

英国には日本と同様に勲章制度があります。人々が様々な分野で残した優秀な功績を認め、社会全体の貢献に対して感謝する、というものです。近年、英国では制度の見直しが行われ、特に、際立った成果を残された人々、または、奉仕活動に尽くした人々に勲章の栄誉を授けています。受勲者が英国人である場合は、通常新年と6月の年2回、君主の公式誕生日に発表される叙勲者リストにて公表されます。

また、場合によって、女王陛下は英国人以外の人々に対しても、英国との関係発展への顕著な貢献を認め、叙勲の栄誉を授けます。こうした叙勲が「名誉勲章」として知られているものです。このような勲章は英国人に与えられた勲章と全く同じ地位を有するもので、受勲者は同じように称号を使用することができると同時に、名前の後に勲章の頭文字をアルファベットで記すことができます。

叙勲は隨時発表され、毎年発表される叙勲者リストには掲載されません。こうした勲章は、女王陛下の代理（通常は大使）によって、受勲者の国にて伝達されます。

大英勲章 (The Most Excellent Order of the British Empire) は英国人以外の人々に最も多く授与される勲章です。第一次世界大戦中に活躍した民間人の勞に報いる目的で1917年に創設されたのですが、現在では、勲章の中では最も広く、各種分野で公共奉仕に尽くした人々に対して贈られます。ロンドンのセントポール大聖堂には、受勲者の功績に敬意を表する場所が設けられています。

贈られる名誉勲章は、各受勲者の貢献に対する感謝の印であり、何ら返礼を期待するものではありません。叙勲後は英国との親しい友人であり続けてほしいとの願いが込められています。

かけがえのないひとときを、ともに分かちあう。
その音楽を生み出した作詞家、作曲家への感謝の気持ちも、
どうぞ忘れないでください。



いつまでも
大切に
したいもの。

「コンサート六法」編纂への第一歩

コンサート事業における法律的環境の整備に関する
調査研究委員会 終了報告

一昨年、国民生活審議会消費者政策部会から公表された「消費者に信頼される事業者になるために—自主行動基準の指針」には、その必要性の背景として企業不祥事の多発が取り上げられていました。幸い、本会において不祥事は起こっていませんが、年間約1600万人のお客様を迎えていた事業者としては、まさに「消費者に信頼される事業者」たる立場を維持しなくてはならないと思います。それにはより良いサービスを提供していくことがまず第一。そして、消費者との契約関係が健全で、誰にでもわかりやすいものとすることが必要です。

また同時に、コンサート事業の成立に欠かせぬ実演家、舞台・照明・音響等の技術者ならびに文化施設管理者など様々な役割を持っている事業者の方々との契約関係も明確でなければならぬと思います。それは事業者間の優良な関係性が舞台づくりに反映され、結果として良いステージをお客様に鑑賞していただけたことに繋がっていると考えるからにほかなりません。

そこでこの調査研究では、これまで行ってきた商慣習に関する調査結果を踏まえながら、早急な対応が必要とされている課題を例に挙げつつ、関連する法律・条例等を明らかにするとともに、「ルールの未確立」によって起つて来る「権利侵害」などについて検討を重ねました。

その結果、3つのビジョンが提示されました。1つ目は「コンサート約款」の改定です。約款を策定してから、すでに9年が経過しており、ネットオークションやチケットキャンセルについても明記しなければならぬ

い問題があるという指摘に基づいています。2つ目は契約書の整備です。ダイブ等危険行為によるお客様のケガに関する責任の所在。あるいは業務分担に関する契約など、取り決めが希薄であったためのトラブル例もあり、基本的な契約があればこそ臨機応変であることを再度確認したいというものです。3つ目はチケットの2次マーケットづくり。これは、ネットオークションなどの転売行為を禁止する方向を打ち出しつつ、その受け皿としての市場の構築が必要という意見に基づいています。また、キャンセル流れなど、再販売を必要とするチケットの購入窓口としての役割も担えるのではないか、という意見もありました。

そして最も大事なことは、こうした緊急課題とビジョンを例とし、解決に向けた活動をしていく中で、その背景にある法律・条例等を整理し、学んでいく姿勢にあると思います。世の中の判断は商習慣では納得されない場合がある。その時の判断は法律や条

例などの社会の規則に拠らざるを得ないということを意識しておくことが必要だと感じました。

今後は、今回の経験をもとに、整理された法律・条例やコンサート約款が掲載され、標準契約書、さらに保険等に関する知識も網羅し、事業者の皆様に活用していただける「コンサート六法」の編纂を目指したいと考えています。

事業名：コンサート事業における法律的環境の整備に関する調査研究

委員長：疋田 聰（東洋大学経営学部教授）

委員：辻居 幸一（弁護士）

反畠 誠一（音楽評論家）

石川 寛良（相模原市市民文化財団事務局長）

上野 博（音楽制作者連盟常務理事）

蓮沼 健（ディスクガレージ取締役）

桑原 宏司（サンデーフォークプロモーション代表取締役）

永田 友純（ホットスタッフプロモーション代表取締役）

事業補助：全国中小企業団体中央会



BOXステージ

デジタルオープンスタジオ

●総合ミュージック科

(ボーカリスト/コンポーラー・アレンジャー/音楽プロデュース/音楽雑誌編集コース)

●コンサート・イベント科

(コンサート制作/コンサートPA/コンサート照明/コンサート舞台監督コース)

●音響芸術科

(レコーディング・PA/サラウンドミキサー・MA/ラジオミキサー・DJコース)

日本工学院の音楽・音響系学科は、A.C.P.C.と提携。

これにより就職情報の提供や業界人による就職セミナー、個別就職ガイダンス、インターンシップなど、就職のための様々なサポートをいただいている。

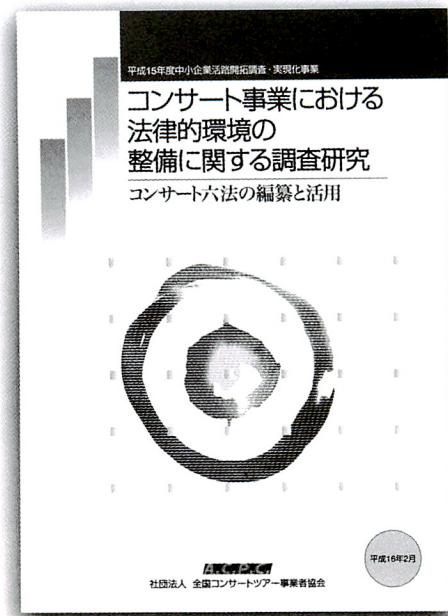
日本工学院専門学校

〒144-8655 東京都大田区西蒲田5-23-22 ☎0120-123-351

日本工学院八王子専門学校

〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404-1 ☎0120-444-700

●PC & mobile URL <http://www.neec.ac.jp/> ●E-mail info@neec.ac.jp



平成15年度 A.C.P.C. 研修会レポート

(2004年3月23日・24日)

今回で12回目を数えるA.C.P.C.研修会が、山梨県河口湖フィットリゾートで行われました。

前日に降り積もった雪を眺めながらの懇親会では、

なぜか室内で雪が飛び交うシーンもあり…のレポートです。

今年の東京は例年より早い桜の開花宣言がありましたが、この研修会が行われる前日、関東甲信越地方は1月並みの寒さとなり、会場となった河口湖周辺では20cm前後の積雪を記録しました。そんな雪景色のなか、今年度は28名の参加者を迎えて、研修会が行われました。

これまで研修会に参加していただいた方々の感想では、「会社を出る機会が少ない女性社員同士のコミュニケーションがとれてよかった」という声が多くありましたこともあり、今年は女性社員限定の研修会となりました。

第1部ではゲスト講師3名による講演。大手CDショップ、プロダクションといった関連業界をそれぞれのお立場からお話をいただきました。同性の講師ということもあって、仕事に対する考え方や経験談では共感する参加者がうなづく場面や笑い声もありました。また、音楽業界全体の現状・展望といった普段あまり聞く機会のない貴重なお話を真剣に聞き入る姿も見受けられました。

全員での夕食を挟んだ第2部では、恒例となった分科会。3班に分かれ、『今年のスローガン』というテーマをきっかけに各班で自由にお話をいただきました。過去の分科会では、ゲスト講師に各班を回ってもらつたのですが、今回は参加者だけの分科会ということで、そこではどんなお話をされていたんでしょうか…?

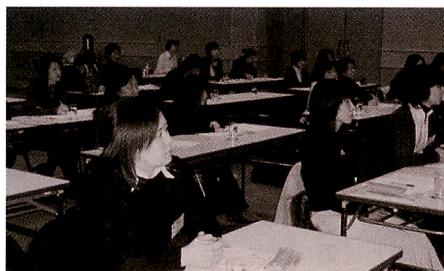
そして第3部は、これも恒例となった懇親会という名の大宴会。オープニングに分科会の班長に各班の様子を発表してもらい、その場がスタートしました。講師を囲む輪の中で真剣な表情があり、笑い顔があり、酔った顔があり…。時には雪合戦も始まり、暖房がきいた室内に飛び交う雪もあり…。22時になると始まった懇親会でしたが、空瓶が1本、2本と増えていき、いつしか3時、4時…。最後は人影も少

なくなったフロアにピアノの音色が響きながら、「研修会」は終了しました。

参加者の皆様、ゲスト講師の皆様、遅くまでお疲れ様でした。そして、遠いところまでお越しいただきました、ありがとうございました。あいにくの天候で、一時はどうなるのかと危惧していましたが、終わってみれば雪の中の研修会というのも印象に残ったのではないかでしょうか。毎年、研修会を行うたびに、参加していただく方々にはどういった場を用意するべきなのかと考えます。この場の空気を共有したことをきっかけに、参加者同士のネットワークが広がり、それぞれの業務に反映されることがあれば幸いです。

最後に、A.C.P.C.として今後もよりよい研修会を開催していきたいと思っていますので、皆様のご意見・ご感想もお聞かせ下さい。機会がありましたら、またのご参加をお待ちしております。

(A.C.P.C.事務局)



このたび、初めてA.C.P.C.研修会に参加しましたが、他社の方々とお話ができる、とても良かったです。日頃、なかなか他社の方々と会うことや話をする機会がないのですが、プロモーターとして仕事の部分で共有することが多いだけに、他社のことを知りたいと思っていました。研修会に参加することでコミュニケーションが取れ、今後の業務にとても役立ちました。今後もっとこのような機会を作つて欲しいです。それによって、もっと横のつながりができ、日常業務ももっと円滑になると思います。(ウエス 新谷明子)

今回の研修会は女性限定ということで、参加者も社内業務の方々が多かったこともあり、話も合い、とても有意義に過ごせました。今まで自分の枠の中で悩みなどを解決せざるを得なかったことが、今回の研修会で同じ立場の方々とのお話をとても参考になり、また、自分のことでも参加者の方々に聞いていただいたことで、今後の自分の頑張れる糧になりました。

(キャンディー・プロモーション 小田美保)

普段、お話する機会のない、音楽業界の第一線で活躍されている方々のお話はもちろんのこと、他社の女性の方々とお話しすることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。講師のお話を伺って、もっともっと自分は頑張れるかもしれない改めて考えることができて、仕事に対するモチベーションが上がりました。

(キョードー東京 西藤美香)

やっぱり全では人が好きということが大事じゃないですか!?だから人が好きでないとダメです。だから、ガンバロウ!!
(研修会担当理事:ディスクガレージ
代表取締役 中西健夫)

ご求人・アルバイトの情報を お気軽に寄せ下さい。

<http://www.tohogakuen.ac.jp/~recruit/>

学校法人 東放学園

東放学園キャリアサポートセンター

〒150-0071 東京都渋谷区本町3-9-3 電話 0120-375-099 FAX: 0120-375-033
E-Mail: syusyoku@tohogakuen.ac.jp





AAA通信

vol.



音楽業界が中心となったエイズ啓発活動『Act Against AIDS』。
第2回目となるAAA通信では、その活動内容について事務局の藤森氏に伺います。

AAAでは、全国の学校に向けて講演も行っています。ある団体の方に、AAAのポスターを作っていただき、高校に配いたらどうかと言つていただいたのをきっかけに、まずはポスターの配布から始めました。1994年のことです。その後、高校に向けさらに何か始めようということで、啓発パネルを手作りし、貸出案内をするようになりました。拡大コピーに色を塗り、それを厚紙に貼つて・・・。

この活動から、各地の高校とコミュニケーションが広がり、学校に伺って講演するようになったのですが、小学校・中学校・高校と話す内容は変わります。高校だと、全日制、定時制で内容はずいぶん違りますね。

高校生だと半分以上、中学生でも経験がある子は沢山いますから感染の可能性があります。現に、ティーンエイジャーの感染は拡大傾向にあるので、知識を置いてくることと、現実の危機感を感じてもらうことの両面を意識しています。

小学校では、同じ市内でも性教育を行っている学校とそうでない学校がありますから、性教育の進度を先生に聞き、内容を決めます。ただ、どちらかと言えば感染原因よりも、差別や命の大切さといったことを求められることが多いですね。

講演に行き、生徒が寝てしまうとすれば、僕の負けです。
せっかく呼んでいただいた講演ですから、少しでも

も生徒の印象に残るように、それぞれの世代で、今何が流行っているかなどのアンテナを張り、話に活かしています。

講演に行った高校の生徒会が地域に向けて、デパートの入口を借りてパネル展示したり、隣りの高校に呼びかけて一緒にエイズの活動を自発的してくれている例もあります。

集まってみんなで考えるのも大切なことですが、行動に移すのはなかなか難しいですよね。なので、僕の話を聞いてくれて、それが自分のために考えてくれた成功です。でも、講演後にクラスの中で、ある生徒が、「さっき聞いたエイズの話だけど」と友だちに言ったときに、「何だよ、お前。エイズなんじゃないの」って言われてイジメのきっかけになってしまうのは残念ながら否めないんですよ。だから講演の中で、逆に僕から「そういうケースって多いよね」、「そういうやつって格好悪いよな」という話をしているんです。そういう話が普通にできるような土壤を同時に作り、考え方の導きをしないといけないと思っています。

講演を希望する学校の数は年々増えていっているんですが、口コミで広がっているんです。文部科学省が、エイズ教育指定地域を作っているんですが、例えば市全体で指定されると、小学校・中学校・高校でだいたい1校ずつ担当になって、2年から3年研究をするんです。そういう指定地域になっているところには、強烈にアプローチします。結構、指定はされたけれど何をやったらいいかわ

からない、という学校が多いので。

AAAのお手伝いが良かったと先生方にも喜んでもらえば隣りの学校にも伝わるでしょうし、講演でも呼んでもらうためには先生方の横のネットワークしかないわけで、とても大事です。

あとは講演が終わった後に保健室にしばらくいさせて欲しい、と必ず頼みます。そこで生徒と話ができるはラッキーです。彼らが何を考え、何を知りたいのかわかりますし、性や体の質問にも答えることが出来る。都立高校で保健体育の授業をやったことがあるのですが、「恥ずかしげもなく、セックスという言葉をみんなに何回も連呼した人は初めてだ」という生徒の感想がありました。僕の勝ちです。(笑)

どんなことでもいいので、話したことを一つでも覚えていてくれたら、その子達がエイズに直面したときに、必ず思い出してくれる信じています。今のままで、この10代の子が成人になるときに、HIV感染はさらに増えていることが容易に予想できます。

今後も学校へのアプローチは手を変え品を変え、活動の核として続けていきます。

アイディアいつでも募集中です!

(AAA運営事務局 事務局長代理：藤森英基)

Act Against AIDS



自分自身のHIV(エイズウイルス)感染に気付いていない人が多い国。それが日本です。AAAは10年間、「エイズを自分のこととして一緒に考える活動」を、音楽業界を中心とした多くの方々からのサポートにより展開しています。この活動は小学生から大人にまで浸透してきていますが、残念ながら新規感染が増加傾向にある現在、活動を「継続すること」と「拡大すること」がさらに必要です。究極のテーマは「AAAの活動が必要なくなること」。ぜひAAAの活動にご参加下さい。

お問い合わせ

info@actagainstaids.com AAA運営事務局 03-3447-0419 (平日12:00~17:00)
<http://www.actagainstaids.com>

MUSIC JOURNEY



永田友純 (A.C.P.C. 会長)



惜しみない賞賛を自然体で贈る会場の雰囲気を体感

ある日曜日にライブから帰ってきてテレビをつけると、上原ひろみというジャズ・ピアニストが演奏している面白そうな番組をやっていて、そこで目が止まりました。『情熱大陸』(TBS系)という番組だったんですが、アムステルダムなどを回るヨーロッパ・ツアーの模様で、『トムとジェリー』という曲を弾いていました。すごくインパクトがあって、心を一気に持っていくされました。それ以外の言葉が見つかりませんでしたね。

それですぐに調べてみると、ユニバーサル社からリリースされていることがわかったので、連絡を取ってみたんですが、バックオーダー

が続出で在庫がないという状態でした。アメリカのテラク・レーベルと契約していてディストリビュートがユニバーサル社なんですが、そのレーベルというのはジャズの専門レーベルで、マスター・テープを日本に貸し出さず、現地でプレスしたものを日本に送るというスタイルなんです。ユニバーサル社はかろうじて帯を日本版にしたということなんですが、日本では対応が難しい状況のようです。

ホームページを見たらライブ・スケジュールが出ていたので、さっそく名古屋のブルーノートに観に行って、福岡のブルーノート、東京に帰ってきてから渋谷のJZ Bratでも観ま

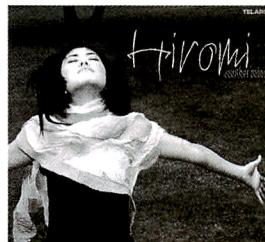
した。とにかく信じられないほどのスピードでピアノを弾くんですが、そのエネルギーがオーラのように発せられているんです。観客はブルーノートに毎回足を運んでいるようないわゆるジャズ・ファンの人もいれば、ピアノの発表会に出るような小学生の女の子とお母さんといった様々なオーディエンスなんです。日本では初めて彼女のプレイを観る人ばかりなのに、全員が虜になっていました。

彼女は活動の拠点をボストンに置いているということだったので、ボストンでのスケジュールも確認しました。ちょうどその時期に、本会の理事である千葉さんがいらっしゃる片柳

学園の研修旅行に同行する予定だったので、パリで研修が終わるところをそのライブ・スケジュールに合わせて、トロントを経由してボストンまで行きました。会場は250人くらいに入るようなジャズ・クラブ。案内された席はピアノの目の前だったので、手の動きが全部見えるんですね。それに圧倒されました。ジャニス・ジョップリンという60年代の伝説の女性ロック・ボーカリストがいるのですが、上原ひろみのパフォーマンスはまさに「鍵盤のジャニス」でした。

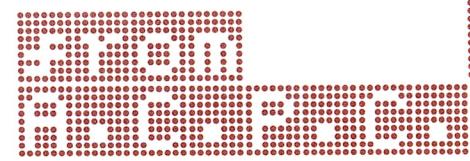
アメリカではスタンディング・オベーションが定着しています。もちろんそれは、誰に対しても行われるものではなく、観客が評価したパフォーマンスにのみ贈られる賞賛です。日本のブルーノートでも多少はあったものの、やはり日本人の性質上、スタンディング・オベーションというのはなかなかしにくいでしょう。ボストンでのライブでは250人のうち15~16人くらいが日本人で、それはおそらく留学生が観に来ているという感じだったんですが、綺麗に全員が立ってスタンディング・オベーションをするんです。そういう会場の雰囲気の中で彼女もやりやすそうでしたね。

ライブで生き生きと演奏するアーティスト、惜しみない賞賛を自然体で贈る会場の雰囲気を体感することができて、ボストンまで足を運んだ甲斐がありました。日本でもこういうスタイルを定着させることができるのは我々の仕事なんだと、改めて思いました。



上原ひろみ プロフィール

1979年、静岡県浜松市生まれ
6歳よりピアノを始め、同時にヤマハ音楽教室で作曲を学ぶ。国内外の「ユニセフチャリティコンサート」「ジュニアオリジナルコンサート」等に多数出演。
17歳の時にチック・コリアと共に演奏し、絶賛される。
1998年よりN.Y.に渡り、ジュニア・マンスに師事。
1999年にバークリー音楽院に入学後、全米各地のジャズフェスティバルに出演し、高い評価を得る。
そして、在学中にジャズの名門テラーク・レベルと契約し、2003年に全米デビューを果たす。同年5月にバークリー音楽院を首席で卒業。現在も活動の拠点をボストンに置き、全米・ヨーロッパ各地をツアーダマウンド。また、国内においても、TBS系全国ネット『情熱大陸』(03.10.19 O.A.)やキリン『モルトスカッシュ』CFへの出演、ブルーノートを中心とした国内初ツアーを成功させるなど、積極的に活動を展開している。



フラワーシップ 「花の通信配達」のご案内

◎専用の発注書にご希望のお花、ご予算（¥3,000～）などをお書きの上、ACPC事務局へFAXして頂くだけで、全国どこへでもお客様のお気持ちをお届けできるサービスです。

ACPCへのご注文により、ご希望されたご予算に送料込みの料金と消費税をご請求させて頂きます。ギフトの種類は花束やアレンジメント、鉢物、開店祝いのスタンド花、冠婚葬祭用に至るまで、あらゆる用途にお応え致します（専用カタログからご用途に合わせてお選びいただけます）。お花に添えるメッセージも24文字までお付けすることができます。是非、こちらのサービスをご利用くださいよう、お待ちしております。

お問合せはA.C.P.C.事務局まで。

TEL: **03-3445-8720**
FAX: **03-3445-8721**



第12回還付金報告

合計金額: ¥10,344,418
対象公演: 平成15年7月～9月開催公演
(平成15年6月～8月申請公演)
参加会員数: 37社 (正会員)

第13回還付金報告

合計金額: ¥17,811,680
対象公演: 平成15年10月～12月開催公演
(平成15年9月～11月申請公演)
参加会員数: 40社 (正会員)

コンサート保険、 備えて安心!

A.C.P.C. 正会員・賛助会員の皆さんへ、保険による事故発生費用の平準化をおすすめします。

- 興行中止保険 ●賠償責任保険
- 観客ケガ見舞金保険 ●アーティスト・スタッフケガ保険

その他、保険の事なら何でも御相談下さい。

Insurance Professionals
UNITY

ユニティー
〒171-0022
東京都豊島区南池袋2-30-12
富士火災池袋ビル8階
TEL. 03.5928.1381
担当:吉澤・松本

(社)音楽出版社協会 渡邊美佐会長 フランス政府より勲章授与

毎年フランスのカンヌ市で開催されているMIDEM(国際音楽産業見本市)は、今年で38年目を迎える歴史ある音楽見本市です。社団法人音楽出版社協会(MPA)の渡邊美佐会長は、MIDEMに第1回から参加し、日本とフランスの音楽産業・音楽文化の両面にわたる交流に尽力されてきました。そして、MPA 30周年という記念すべき今年、これまでの功績に対して各方面より数々の栄誉が贈されました。

MIDEM開幕の1月25日には、リードMIDEMオーガニゼーションCEOよりMPA 30周年を祝うクリスタルの記念品が贈られ、翌26日には、ジャン・リュック・アヤゴン文化通信大臣をパリからお迎えし、会場近くのマジェスティック・ホテルで「芸術文化勲章オフィシェ」の授賞式が行われました。

渡邊会長は、1960年代初めからザ・ピーナッツをオーストリア、西ドイツのテレビ番組に出演させたのをはじめ、伊東ゆかりのサンレモ音楽祭出場、木の実ナナのオリンピア劇場出演などを経て、1967年の第1回からMIDEMに参加、1978年には4年前にヨーロッパ・デビューさせた沢田研二のMIDE

Mガラ・コンサートを実現しています。こうした功績に対して、1991 MIDEMは、「世界の音楽産業発展に貢献したベスト12」に渡邊会長を選出しました。アジアから唯一、女性としてもただ一人の表彰でした。

渡邊会長はすでに日仏交流100年にあたる1997年にフランス政府から「芸術文化勲章シユバリエ」が授与されていますが、今回のオフィシェはシユバリエの上のグレードに属する勲章で、両方を授与されることは極めて稀な栄誉であるということです。

そして、27日にはカンヌ市より同市の最高の栄誉である「バルムドール賞」を受賞するとともに、ICMP(国際音楽出版社連合)からも記念の賞状楯が贈されました。



ジャン・ジャック・アヤゴン文化通信大臣から芸術文化勲章オフィシェを授与される渡邊美佐会長



バルムドール賞を贈られた渡邊美佐会長
左はボル・ジルク(リード MIDEM オーガニゼーション社長)

(社)日本音楽事業者協会創立40周年記念ミュージカル『スター誕生』



(社)日本音楽事業者協会創立40周年記念ミュージカル『スター誕生』(主催:社団法人 日本音楽事業者協会)が、2004年3月17日(水)~4月18日(日)の約1ヶ月間に渡り、東京・青山劇場にて行われました。

“日本の音楽史に輝く名曲で綴るミュージカルファンタジー”と銘打った本公演は、ミュージカルを通じて

成長していく3名の主人公(今井絵理子、島谷ひとみ、仲間由紀恵)を描いたストーリー。主役の3人をはじめ、音楽事業者協会会員社が推薦したベテラン及び新人アーティスト、オーディション合格者、30名を越す津軽三味線奏者など総勢100名余りのキャストの熱演がステージいっぱいに繰り広げられました。

そして豪華出演者が歌う1960年代から2000年代

を象徴する名曲の数々が、ミュージカルの細部に渡って彩りを添えていました。中でも圧巻は、オーケストラと津軽三味線のコラボレーション。和と洋、そして歴史の融合が奏でるポップスは、壮大なスケール感と楽曲の新たな可能性を感じることができたのではないかでしょうか。

ミュージカルを通して強く感じたことは、その年代を代表する名曲には、時代・世代を超えて観客や視聴者の心に響くパワーがあるということ。40年の歴史はもちろんのこと、人々の心に残る楽曲は歌い、語り継がれていくものです。そうした想いを改めて感じることができたミュージカルでした。

